

## 行事報告

## 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ミャンマー)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門  
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2016年10月30日~11月12日の期間で、昨年に続き二回目となるミャンマー・ヤンゴンでのカップリング・インターンシップ(CIS)を実施しました。本年もヤンゴン工科大学との連携により、J&M Steel Solutions (JFEエンジニアリングとミャンマー建設省の合弁企業であり、主に橋、歩道橋、浮棧橋などの社会インフラの建設)に企業実習として受け入れて頂きました。

参加学生は阪大から工学研究科2名、ビルマ語専攻2名、ヤンゴン工科大学からは土木専攻2名、冶金専攻2名の合計8名でした。最初の2日間、ヤンゴン工科大学で実施された事前研修では両国の紹介、日系企業の基本理念、コミュニケーション、接合科学の基礎などの講義と実習を行い企業実習への準備、及び現地で初めて対面した学生同士のアイスブレイキングの時間としました。J&M社での企業実習では、事業紹介、工場での溶接、孔明、ガスカッティング、マーキングなどの学習、社員インタビュー、新しく建設された浮き棧橋の設置現場見学など、多岐に渡る活動を行いました。

文化体験では、主に寺院巡りをしたり、伝統衣装を購入したりとミャンマー文化に触れる機会もありました。最終報告に向け学生11月11日(金)に行われた最終報告会では、事前に企業から提示されていた「コミュニケーションにおける課題と対策」について2チームからそれぞれ発表しました。報告会には、J&M社の庄司社長、明野総務部長及びCISの実施調整にご尽力頂いた井上様、ヤンゴン工科大学からはDr. Mi Sandar Mon 機械工学学科長他4名の教員が参加されました。両チームからは共に、職場環境と社員のモチベーションの向上、及び社内の風通しなどを良くするための様々な提案が出されました。

庄司社長からは、学生の各種提案に対し、オフィススタッフだけではなく、ワーカーへの配慮も含まれる学生の提案に驚いたとのコメントがあり、また、新しい会社であるため提案については少しずつ取り入れていきたいとのコメントがありました。同社では実際に、昨年の参加者からの提案を少しずつ取り入れており、学生にとっても嬉しい活動の軌跡となっています。

